

オオクチバス駆除後の移植放流による シナイモツゴとゼニタナゴ生息場の拡大（宮城）

二宮景喜・高橋 清孝（NPO 法人シナイモツゴ郷の会）

宮城県旧品井沼の周辺ため池には品井沼由来と考えられるシナイモツゴとゼニタナゴが生息している¹⁾。しかし、1995年から近隣のため池でバス釣りが大流行し、幹線道路近くのため池には全てバスが侵入し、小型魚類は全滅した。2001年にはシナイモツゴ生息池の一つでもオオクチバスの侵入が確認された。そのため、当会が呼び掛けて2002年8月に初めての池干しによるバス駆除を実施した。

これ以来、周辺のため池で地域住民と共に、毎年、池干しを行い、オオクチバスを完全駆除してきた。さらに、遺伝的多様性に配慮しながら、地元小学校の協力を得てシナイモツゴ稚魚を育てて、バスを駆除したため池へ移植放流し、生息池を拡大してきた。

これらの活動により、周辺ため池のほとんどでオオクチバスを一掃し、シナイモツゴとゼニタナゴ両方の生息池4ヵ所とシナイモツゴの生息池1ヵ所を新たに拡大することに成功した。これらのため池を水源とする小河川では上中流部でオオクチバスが姿を消し、タモロコなど小型魚類が多数出現するようになった。この河川では、毎年、地域住民や都市部の市民と共に生き物観察会を開催し生息魚類を観察している。この結果、シナイモツゴは毎年、ゼニタナゴは年により多数観察できるようになった。

このように、ため池におけるオオクチバスの駆除と在来魚の復元は周辺河川の魚類相にも大きく影響することが確かめられた。

参考文献

- 1) 高橋清孝・門馬喜彦：シナイモツゴの再発見と人工繁殖，宮城内水試研，2，1-9（1995）。